

「日々の理科」(第 4188 号) 2026, -1, 27

「山梨県扇山の山火事(2)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

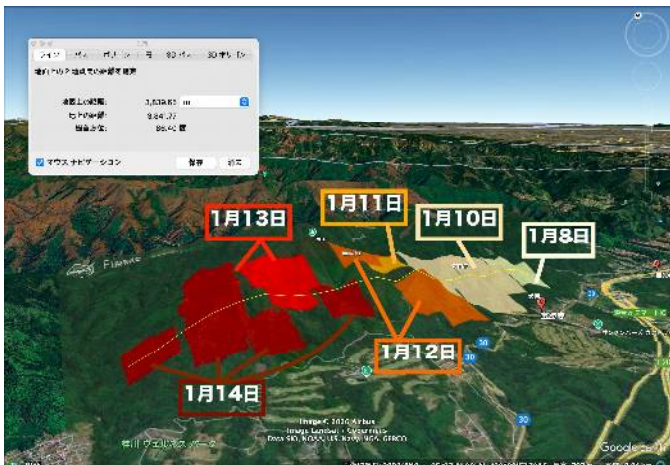
田中 千尋 Chihiro Tanaka

この「四方津駅(しおつえき)」には子どもの頃の思い出があります。小学校4年生ぐらいの時に、父が扇山ハイキングに連れていってくれました。クラスの友達7~8人と、その保護者の方数人も一緒でした。下山して四方津駅まですぐというタイミングで、猛烈な雷雨と降雹に遭い、駅近くの公園のトイレに逃げ込みました。雹はこの世の終わりかと思うような降り方で、男の子も女の子も一かたまりになって震えていました。



「昭和の四方津駅」(画; C.Tanaka)

やっと小降りになって、四方津駅に着くと、びしょぬれになった子どもたちに、駅員さんがタオルを貸してくれました。その古風な駅舎も今はなく、終日無人駅となっています。



(Xより)

今回の山火事は「扇山の山麓」と報道されていたので、四方津駅が一番近いと思っていました。しかし火

災の範囲がどんどん西側(大月市寄り)に移動したので、もっと先の「猿橋駅」で降りることにしました。



電車の中からも自衛隊のヘリコプターが頻繁に行きかうのが見えました。やはり、まだ鎮火はしていないようです。



車窓からも火災の煙がはっきり見えました。幸い線路から数キロ離れていて、鉄道の運行には全く影響がなかったようです。



目的地の「猿橋駅(さるはしえき)」に着きました。東京から直通の「中央線快速」の終点「大月駅」の一つ手前の駅です。駅のホームからは、ピラミッド型の山容の「扇山」がよく見えます。こんな山の中に中央線の通勤電車が停まっている、不思議な風景です。